

里のすずらん報

2019年 1月号 No. 214

発行者

〒869-5161
八代市葭牟田町435番地
特別養護老人ホームすずらの里
Tel 0965-39-7511
Fax 0965-39-7512
施設長 福田道子

迎春

新年挨拶、新しい年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、よき新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国的に洪水や台風の襲来、地震や記録的猛暑など例年にないほど災害の多い一年でした。

また、政界、財界、スポーツ界などでも様々な問題や不祥事が発覚し、これまで各界で行われてきた悪しき慣習などが顕在化した年となったのではないかと思います。新たな年号となる今年には「災い転じて福となす」というように、日本全体が良い方向に向かい、すずらの花ことばである「幸せの訪れ」を感じることが多い年になってもらいたいと願っています。

さて、平成元年4月に「軽費老人ホームすずらん苑」を開設してから今年で30周年を迎えます。さらに、「特別養護老人ホームすずらの里」が開設20周年、「養護老人ホームすずらの杜」も開設10周年を迎えることになり、平成の時代とともに歩んできました。当法人におきましても年号が変わる今年は大変な節目の年となります。

この30年間、高齢者福祉施設を運営し、地域福祉の拠点としてその役割を果たすことができましたのもご利用者及びご家族をはじめ、地域の皆様や行政及び関係機関の方々のご理解とご支援の賜物であると深く感謝いたします。

これからも、利用者への満足度の高い高品質のサービスの提供はもとより、地域の社会資源であるという使命感を常に抱き、安心拠点としての施設づくりを進め、来たる新しい時代を迎えるにふさわしい法人として、法人理念でもあります「地域住民や利用者から愛され信頼される法人づくり」に邁進していきたいと存じます。

皆様方の尚一層のご指導、ご支援、ご厚情を賜りますようお願いいたします。と共にご一年間のご多幸を祈念いたしまして新年の挨拶いたします。

平成三十一年一月一日

社会福祉法人天龍会 理事長 福田リツ子



問慰分校次弥

12月7日(金)午後から弥次分校三年生との交流会が行われました。児童達は最初に『パフ』という曲をリコーダーで演奏したり、千本桜の曲に合わせて軽快な演舞を披露してくれました。利用者の方々はその様子を真剣に鑑賞されており演目が終わると大きな拍手が沸き起こっていました。子どもたちの一生懸命で可愛らしい演奏と演舞にとっても感激されたようで、皆嬉しそうな笑顔で「とても良かった」と感想を口にされており、とても和やかな交流会となりました。



元気いっぱいの児童達をみて皆さん元気をもらいました!



平成31年1月1日平成最後のお正月、新年の集いの後、入所者で集合写真を撮影しました。

- 祝** ~1月の誕生者~
- 稲葉モモエ様(T14.1.1 94歳) 坂口邦子様(S3.1.23 91歳)
 - 橋本タマエ様(T8.1.3 100歳) 森岡ミドリ様(S12.1.20 82歳)
 - 宮崎千鶴子様(S 2.1. 8 92歳) 島田 邦子様(S15.1.12 79歳)

広報紙における写真や記事は個人情報保護法に基づき本人およびご家族の承諾のうえ掲載しています。

忘年会・クリスマス会・誕生会

今年最後の締めくくり

12月21日（金）

16時半より恒例の誕生会・忘年会・クリスマス会を開催しました。誕生会では入所者・シヨートステイ利用者4名を皆さんで祝福しました。



羽根つきでミスをし、目元に書かれた田上賢一職員！

職員による余興では正月間近と言う事もあり『羽根つき』を田上陽介職員・田上賢一職員で行い、ミスをした方に墨を塗ると言う罰ゲーム方式で行いました。墨を利用者の方にお願いますと「よかですか？」と恐る恐る小さな丸を眼の周りに描かれ「もつとよかです



よ」と言うと言と髭まで書かれ周りの皆さんからどつと大きな笑い声が起りました。次はストッキング相撲です。男女に分れ4人でストッキングをかぶり引き合います。中で顔が引つ張られ凄いい形相になり利用者の方へ近くと「よかおなご台無しばい。」と口を開けて大声で笑っておられました。最後は「玉入れ」で赤白に分れて行いました。皆さん血が騒ぐのか玉を次から次へと投げ側にいる職員には「はよ玉ばください」と皆さんよく体を動かされていました。

その後は食事会に移りシャンパン・ビールで乾杯しバイキング形式の料理に「ごちそうたい」と会話も弾みながら美味しくいただけられていました。



女性職員3名も体を張り頑張りました。

終始和やかな雰囲気ではすすみ、誕生会・忘年会・クリスマス会を皆さんと一緒に参加し笑顔いっぱい



焼き鳥を美味しく食べられる西田アイ子さん！

となりました。今後も職員一同利用者様が安心して暮らせるように支援していきますのでこれからも宜しくお願いします

介護福祉士 松本夏美

20年目の職員

職員インタビュー

久保田照代

介護支援専門員



【入職時の職種（20年前）】
社会福祉協議会で8年間ホームヘルパーとして勤め介護福祉士、介護支援専門員の資格を取得しました。今後、介護支援専門員として仕事をしていきたいと思っていますので介護の事をもっと深く知りたいと思っています。ずらんの里に転職し入所棟で介護福祉士として勤務していました。

【20年間で自分が変化したところ】

まじめで真っ直ぐな一本気な性格でしたが60歳を過ぎると体と同じように丸くなってきたように思えます。

【20年間で印象に残っている事】

利用者の方とブドウ狩りや納涼祭の行事を楽しめた事、余興の苦手な私でも利用者の笑顔が見たくて夢中で取り組んだ事。また「うちのばあちゃんがいる間はいてね」と利用者のご家族から声をかけてくださり感謝しています。

【これからの抱負】

これまでの経験を活かし利用者様との関わりを多く持ち楽しんで仕事をしたいと思っています。また、英会話に挑戦したり、筋トレやヨガを継続しながら体力を維持し楽しみである旅行にたくさん出かけたいです。

あるある 劇場

